



海のごみへの取り組み

心あったかニュース

海に流れ出るプラスチックごみが世界的な問題になっている。漁業や生態系に悪影響を与え観光客が減少し年間約1兆4千億円以上の損害が発生しているという経済協力開発機構の調査結果もある。今年5月、東京のJR新橋駅の一角でプラスチック製品の展示販売が行われた。石川県の企業カエルデザインが発案で実現した。参加したのは、横浜市でboy(ブイ)というブランドでトレイなどを販売。福井県で海ゴミ問題の新しい解決方法に取り組み、海ごみを使用したサングラスづくりなどもしている団体アノミアーナだ。製品は、大きな円形トレイ、葉っぱの形をしたトレイ、植木鉢と種類を増やした。最近の月に1000点以上売れているという。分別せずに埋め立てに使われている海洋ごみを、分別するように福井県や海沿いの市町に提言をしている。提言を受けて、小浜市は海ごみの一部を分別処分

するようになった。分別処分を増やすことで処理費用が減ります。さらに再利用するプラスチックを増やすことも期待できる。2021年1月から持続可能な開発のための国連海洋科学の10年がスタートした。2030年までの間、海の環境を守るための国際的な取り組みが世界中で行われる。ヤフーニュース 深刻化する海洋プラスチックごみ、再利用に乗り出した人たちより)

海外選手からの感謝

賛否両論あるなかの開催となったオリリンピックですが、ありがとうございました。感謝で心あったかもありましたので、ご紹介します。オーストラリア選手団が、選手村の宿泊棟に日本への感謝の気持ち伝える巨大な垂れ幕に「THANK YOU」心より感謝いたします」と書かれています。スウェーデン女子サッカーのヘッドヴィグ・リンダールは自身のインスタグラムにオリリンピックの

素晴らしいスタッフとボランティアの皆さんお疲れ様でした。今日も彼らは残業をしてみんなを助け、終電で帰れば大丈夫』と言った」と綴り、笑顔のボランティアスタッフたちの写真とともに、やりとりの一端を明かした。そうです。

編集後記

海の汚れは、地球の汚れでもあると思います。どうかしようとしてくれる人達がいることに感謝して。一人ひとりもプラゴミに対する意識をもっていきたいと思います。オリリンピックでの海外の選手からの感謝は心であつたくさせてくれます。頑張った人達に感謝の気持ちを送りたいと思います。